

Ⅷ 2019 年度事業の点検・評価及び 2020 年度の事業計画

1 概要

文部科学省告示「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」(2012.12)では、公共図書館は、当該図書館の基本的な運営方針を踏まえて策定した指標及び目標と事業計画について、毎年度、自己及び関係者・第三者による点検・評価を行い、P D C A サイクルによる進捗管理の実施に努めることとされている*。

当館では、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」に準拠し、2014 年 8 月に「愛知県図書館の基本的な運営方針～すべての県民に役立つ拠点図書館をめざして」を策定した。基本的な運営方針で定めた 4 つの取組のもと、行動目標と運営指標(数値目標)からなる行動計画を策定し、毎年度、行動計画に即した事業計画を策定するとともに、その達成状況について、当館及び図書館専門委員会による点検と評価を実施している。

2020 年度は、2018 年度末に策定した「後半 5 年の行動計画」(実施期間：2019 年度から 2023 年度)による運営指標と事業計画の達成状況について、点検と評価を実施する初年度である。

※「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」第二(公立図書館)の一(市町村立図書館)の 1(管理運営)の(一)(基本的運営方針及び事業計画)及び(二)(運営の状況に関する点検及び評価等)を参照。第二の一に定める市町村立図書館に係る基準は、都道府県立図書館に準用される(第二(公立図書館)の二(都道府県立図書館)の 6(準用)を参照)。

2 2019 年度事業の自己点検・評価

① 運営指標(数値目標)の点検

後半 5 年の行動計画で定めた 6 つの運営指標(数値目標)の達成状況は、次のとおりである。

取組	運営指標(数値目標)	2019 年度達成状況
1 すべての県民への図書館サービスの提供	I 入館者数(55 万人以上)	504,796 人(進捗率：91.8%)
	II 利用者の満足度(「来館の目的が達成できた」が 90%以上)	来館者アンケートでの「来館の目的達成度」が 81.8%(進捗率：90.9%)
	III 蔵書検索アクセス数(180 万回)	1,701,226 回(進捗率：94.5%)
2 市町村立図書館等への支援	IV 協力貸出の冊数(市町村立図書館向け 18,000 冊以上、学校図書館向け年間 2,000 冊以上)	市町村立図書館向け 12,270 冊(進捗率：68.2%) 学校図書館向け 2,267 冊(進捗率：113.4%) 合計 14,537 冊(進捗率：72.7%)
3 サービスを広げる図書館ネットワークの形成	V 主要紙での評価(「プラス」評価が 80%以上)	63.6%(11 件掲載 プラス：7 件、中立：4 件、マイナス：0 件)
4 図書館活動を支える県図書館体制の整備	VI 職員の講師派遣・協会等での発表回数(24 回以上)	15 回(講演等 11 回、文献発表 4 回)(進捗率：62.5%)

上表のように、6 つの運営指標全てについて、数値目標には届かなかった。I 入館者数、IV 協力貸出の冊数については、当館始め県内の公共図書館が、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、長期にわたり臨時休館したことが大きく影響している。6 つの運営指標(数値目標)のうち、進捗率で 90%超が 3 指標(I、II 及び III)ある一方、70%台が 1 指標(IV)、60%台が 2 指標(V 及び VI)ある。進捗率が低かった運営指標(V 及び VI)は、情報発信と人材育成に係る指標であり、情報発信と人材育成の取組みに課題があることがわかった。

② 2019 年度事業の評価

2019 年度は、10 の行動目標について、24 の事業を計画し実施した。その評価の概要については、次のとおりである（詳細については、22 ページから始まる別表を参照）。

行動目標	事業計画の項目数	評価※
① 誰でも利用しやすい図書館サービスの推進	2	2 項目とも B 評価
② 地域の課題解決に役立つ図書館サービスの提供と拡充	3	3 項目とも A 評価
③ 学校や地域、家庭での子供読書活動の支援	3	1 項目が A 評価、2 項目が B 評価
④ 資料保存体制の整備及びデジタル化の推進	3	3 項目とも A 評価
⑤ 協力貸出、相互貸借の拡充	1	C 評価
⑥ 市町村立図書館等の運用・人材育成の支援	2	2 項目とも A 評価
⑦ 様々な団体・行政機関と連携する場と機会の提供	3	2 項目が A 評価、1 項目が B 評価
⑧ 多様なメディアを活用した広報の強化	3	3 項目とも B 評価
⑨ ものづくり文化、地域資料などの専門的な資料の収集と提供	2	2 項目とも B 評価
⑩ 新しい取組みを担う県図書館職員の育成	2	A 評価と C 評価

※ 事業計画の点検・評価については、「あいち文化芸術振興計画 2022 年次報告書」の評価区分（下表）を使用。

評価区分	目標達成状況（評価の目安）	
A	予定を上回る効果があり、着実に進捗	100%以上
B	予定どおり進んでおり、概ね順調に進捗	80%以上 100%未満
C	一部で予定どおり進んでおらず、やや進捗が遅れている	60%以上 80%未満
D	予定どおり進んでおらず、進捗が遅れている	60%未満
—	対象年度に、事業の実施が無い等により、評価不能の場合	

・今回の自己点検・評価では、定性的評価（左欄）にあつては、各評価区分の中間的評価は、切り上げて評価した。

24 の事業項目のうち、A 評価が 12 項目（50.0%）、B 評価が 10 項目（41.7%）、C 評価が 2 項目（8.3%）であった。D 評価に該当するものはなかった。一部の事業に予定どおり進まなかったもの、数値目標に及ばなかったものも見られたが、「（行動目標②）地域の課題解決に役立つ図書館サービスの提供と拡充」、「（同④）資料保存体制の整備及びデジタル化の推進」及び「（同⑥）市町村立図書館等の運用・人材育成の支援」に係る事業は着実に進捗した。事業計画全体では、概ね順調に進捗したと評価した。

3 2020 年度の事業計画

2020 年度は、2019 年度の事業計画の達成状況と自己点検・評価の結果を踏まえ、10 の行動目標について、別表のとおり事業計画を策定した。

① 2020 年度事業計画執行の基本的な考え方

事業計画の執行にあたっては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止策を講じながら、慎重に図書館サービスを実施することとする。事情によっては、事業の縮小又は代替措置の検討・実施を行う。また、次のように運営指標の数値目標の見直しを行うこととする。

運営指標の数値目標の見直し 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2020 年 4 月及び 5 月が臨時休館であったこと、また 6 月以降開館した場合にあつても、従前のおりのサービスを提供することはすぐには難しいため、運営指標の数値目標のうち、利用の制限や県内図書館の開館状況に左右される I 入館者数、IV 協力貸出の冊数及び VI 職員の講師派遣・協会等での発表回数について

は、数値目標の60%を目標の目安とする。

② 事業計画の中で特に重点をおいて取り組む事業

2019年度の運営指標(数値目標)の点検において、課題であることがわかった情報発信及び人材育成については、重点的に取り組むこととする。進捗に遅れが見られた事業や数値目標に及ばなかった事業については、進行管理を着実にを行い、計画どおりの実施に努める。さらに、ウィズコロナ・アフターコロナという状況に対応した図書館運営が社会的にも求められていることから、感染症のパンデミックにも対応した危機管理、「新しい生活様式」に対応した図書館サービスを検討・実施する。

ア 情報発信

インターネットメディアを利用した広報について、SNSの充実に努めフォロワーの増加を図るとともに、当館のホームページについて、見やすく親しみやすいものにするため、見直しの検討を開始し作業に着手する。また、新型コロナウイルス感染症拡大の中で、注目された動画を活用した広報やサービスの提供について、活用できる体制を作り、制作を軌道に乗せる。

なお、2021年度は当館が開館してから30周年を迎える年でもある。開館30周年は当館広報のよい機会でもあることから、2021年度における周年記念事業について検討する。

イ 人材育成

館内外の図書館情報学に関する研修の他、統計や広報、著作権法など図書館運営に役立つ関連領域の研修や講座(オンライン講座受講などを含む)への職員の参加を積極的に継続する。

職員が研修や講座で得た知見を、地域の図書館へ還元することを目的に、感染症の拡大防止には留意しながら、積極的に地域の図書館への講師派遣等の要望に応じるとともに、上記「ア 情報発信」の取組みを活用し、職員の講師派遣等について地域へのPRを図る。

ウ 危機管理

地震、水害、火災等、従来図書館が想定してきた災害への対応(危機管理)に加え、感染症のパンデミックという事態の中での事業継続の在り方について調査・検討を進め、新たな災害へも対応できる危機管理体制を構築する。

エ 「新しい生活様式」に対応した図書館サービスの検討と実施

感染症の拡大に伴って、各地の図書館がサービスを停止する中で注目された郵送等による配達貸出サービスや電子書籍貸出サービスなどの非来館型サービス、ウィズコロナ・アフターコロナという状況に求められている「新しい生活様式」に対応した施設や機器の整備・導入を検討し、実施できるものから着手する。

4 図書館専門委員会での主な意見

2020年7月10日、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2020年度図書館専門委員会を書面により開催した。2019年度事業の自己点検・評価及び2020年度の事業計画について、委員からの主な意見は次のとおりである。

① 2019年度事業の点検・評価について

- ・ 全体的に順調に運営されている。計画した24の事業項目について、A評価とB評価とで90%を占めたことは、県図書館の取組みが実を結んでいると考えられる。特に、ビジネス支援、行政機関との連携など地域の課題解決に役立つ図書館サービスの提供や、資料保存・デジタル化、市町村立図書館支援は、着実に進捗している。
- ・ 県図書館の蔵書について、他図書館と比較した強みを見つけ出してほしい。必要な人に、必要な資料が、必要な時に届くことが重要である。分担収集、連携、相互貸借、そして災害時の対応も念頭に置いた、愛知県らしさのある蔵書を期待する。

- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大予防のため臨時休館となってしまった結果、様々な運営指標において進捗率が十分に伸びなかった点は、やむを得ないと考える。むしろ、2月までの活動において一定の成果が認められる点は評価できる。
- ・ 協力貸出の流通状況の調査を実施したことは評価できる。さらに実態を掌握するためジャンル分けなど細かい調査をすると良いと考える。市町村立図書館からの購入リクエストの分析からもニーズの把握は可能であると思うが、市町村立図書館が、県図書館から協力貸出で対応する基準を調査しても良いのではないか。
- ・ 来館者の年代別の割合では、20～40代の働く世代の割合は少ない。一方、趣味・娯楽を利用目的とする人の割合が多いことから、退職後の時間にゆとりのある層が娯楽のために利用するという典型的な図書館利用者像が見える。仕事や暮らしの中で図書館を活用して学ぶということを日常のものとしていくためにできることを引き続き検討していただきたい。

② 2020年度の事業計画について

- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大予防のための対策を取らざるを得ないので、入館者数等の運営指標の数値目標の60%を目標の目安とするのは妥当である。
- ・ SNSを活用した広報については、若年層に積極的に訴えることができる媒体の検討や、親しみやすさを増す工夫をしてほしい。また、図書館が実施する多文化サービスとの連携など内容の充実が必要である。
- ・ 専門機関や専門図書館（室）との連携、協力を推進してほしい。
- ・ 感染症対策が必要となり、これからの図書館の在り方が変化し、「新しい生活様式」に配慮した事業計画を策定されていると思う。郵送貸出サービスや電子書籍貸出サービス等の非来館型サービスの実施や資料のデジタル化などの一層の充実が望まれる。
- ・ 協力貸出は重要であるが、一方では費用も嵩むものである。重要なのは貸し出す資料を限定することである。そのためには現状を調査し、コストに見合う協力貸出になるかどうかを研究して欲しい。
- ・ 高齢者の方や子育て中の方について、「高齢者や子育て中の方のニーズはこういうものである。」と最初から決めてかからず、多様なライフスタイルやニーズを持つ、一人の個人であることを考慮した、学ぶことを楽しむ機会を提供してもらいたい。

③ その他

- ・ 今後も、拠点図書館として、市町村立図書館の蔵書の補完、県内図書館相互の連携強化及び専門的な資料の収集に努めていただきたい。
- ・ 読書のバリアフリーを一層推進するために、障害の有無に関わらず、全ての県民が読書に親しむことができる環境整備に向けた取組みを充実していただきたい。
- ・ 県内、また近隣の県での、緊急事態措置の中での各図書館のサービス実態に関する資料の収集と保存を実施してもらいたい。
- ・ 県立高校の取組みを、1階エントランスY o t t e k o（ヨッテコ）で紹介する事業は、県民に対する県立高校の貴重な広報の機会となっている。今後も継続して実施してほしい。
- ・ Y o t t e k o（ヨッテコ）について、図書館の「知」と人の「知」が有機的につながる場としてテーマ展示やプログラムを企画しても良いのではないかと思う。「知」のインフラの意義を社会全体で共有することの大切さを感じている。
- ・ 市町村立図書館は、県図書館からの支援を大いに期待している。今回のコロナ禍のような時には、具体的な対応を早い段階で示してもらおうと良かった。

別表

取組	行動目標	概要	2019年度	
			事業計画	点検・評価
1 すべての県民への図書館サービスの提供	① 誰でも利用しやすい図書館サービスの推進	障害者、高齢者、外国人などのニーズに即した図書館サービスを推進します。安全で快適かつ魅力的で利便性の高い施設環境を整備し、多様な交流と学習、探求、発見、賑わいの場を提供し、多様な利用者のそれぞれの居場所となれる図書館を目指します。	<p><R1-1></p> <p>(障害者サービス)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①児童・生徒向けの録音図書製作体験イベントを開催します。②障害のある子どもたちの読書を支援するための研究会を関係団体と共催します。 <p>(高齢者サービス)</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部機関・団体と連携して高齢者を含めた一般向けの健康講座を年3回実施します。 <p>(外国人県民サービス)</p> <ul style="list-style-type: none"> 在住外国人人口構成やニーズ等を踏まえ、外国人県民の方へのサービスを拡充します。外国人児童の母語習得に資するため、多文化サービスコーナーに絵本コーナーを設置します。 	<p>(障害者サービス)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①児童・生徒向け体験イベント「おんやくなってなんだろう」(7/31、参加者：12人)、②「読書バリアフリー研究会」(共催：伊藤忠記念財団)(7/14、参加者：70人)を実施 <p>(高齢者サービス)</p> <ul style="list-style-type: none"> がん相談会「だれでも なんでも がん相談 at図書館」(連携：愛知県がん診療連携協議会)を2回(6/26、参加者：相談10人・リスクチェック7人)(1/18、参加者：相談17人・リスクチェック5人)、「精神科看護師と考える 身近なメンタルケアとしての会話術」(連携：県精神医療センター)(10/30、参加者：55人)の計3回健康講座を実施 <p>(外国人県民サービス)</p> <ul style="list-style-type: none"> 愛知県多言語コールセンターの利用を登録(8/8)、多文化サービスコーナーに絵本コーナーを設置(2/14) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・B：予定どおり進んでおり、概ね順調に進捗 <p>【理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標どおり事業が進捗 </div>
			<p><R1-2></p> <p>(入館者数・利用者の満足度)</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者のニーズに応えるサービスの提供につとめ、年間55万人以上の入館者数を目指すとともに、90%以上の方が来館の目的を達成できるよう資料やサービス環境を整備します。(運営指標) <p>(学習室の開放)</p> <ul style="list-style-type: none"> 大会議室の学習室開放について年間30日以上実施します。 <p>(子育て支援サービス)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①授乳室を整備します。②近隣の公共施設と連携し、子育て中の方を対象にした当該施設のプログラムの紹介を行います。 	<p>(入館者数・利用者の満足度)</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間入館者数504,796人(3/2~3/31休館)(進捗率：91.8%)、来館者アンケートでの「来館の目的達成度」が81.8%(進捗率：90.9%) ※入館者一日平均1912.1人(昨年度1885.2、101.4%) <p>(学習室の開放)</p> <ul style="list-style-type: none"> 大会議室の学習室開放を31日実施(進捗率：103.3%) <p>(子育て支援サービス)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①AV室内に授乳室を設置(10/1)、②児童室で近隣施設の子育て中の方を対象にしたイベント等の広報物を随時配布(4/1~)

事業計画			
2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
<p><R2-1></p> <p>(障害のある方へのサービス) New! 視覚障害者等への朗読サービスを行う新規ボランティアを募集し、養成講座を開催します。 New! 視覚障害者の方も一緒に楽しめるような音声ガイド付きの映画の上映を、名画鑑賞会で実施します。 New! 障害のある方の文化芸術活動への理解を促す企画展示を、関係機関・団体等と連携して実施します。</p> <p>(高齢者の方へのサービス) ・外部機関・団体と連携して高齢者を含めた一般向けの健康講座を実施します。 New! 読書補助具の点検を行い、必要に応じて更新等を実施します。</p> <p>(外国人県民の方へのサービス) New! 多文化サービスコーナーを充実するため、各外国語図書（日本語学習用資料を含む。）について、100冊を目標に収集します。 ・外国人県民の方の利用ニーズを踏まえた、多文化サービスコーナーのサインや掲示の改善を実施します。</p> <p>(子育て支援サービス) ・子育て中の方が親子で楽しめる、あかちゃん向け・幼児向け・小学校低学年向け「おはなし会」等イベントを度実施します。 ・子育ての方に役立つ他の機関や団体のチラシやパンフレット類を常備し、案内・配布します。</p> <p>(施設環境・学習環境の整備) ・昨年度の検討結果を踏まえ、順次ICT機器持ち込みエリアを設置します。 New! 施設の老朽化に伴う必要な改修工事を実施します。 ・大会議室の学習室開放について、機を見て再開し、若者や社会人の学習活動を支援する環境を整えます。</p>	<p>障害者サービスの理解を深める事業を継続</p> <p>高齢者の生活支援に繋がる事業を継続</p> <p>人口やニーズを踏まえた外国人県民向けサービス事業を継続</p> <p>子育て中の利用者のための環境整備と情報提供を継続</p> <p>(ICT環境) 検討を踏まえ順次拡大</p> <p>施設環境・学習環境の整備を継続</p>		

取組	行動目標	概要	2019年度	
			事業計画	点検・評価
1 すべての県民への図書館サービスの提供	① 誰でも利用しやすい図書館サービスの推進	障害者、高齢者、外国人などのニーズに即した図書館サービスを推進します。安全で快適かつ魅力的で利便性の高い施設環境を整備し、多様な交流と学習、探求、発見、賑わいの場を提供し、多様な利用者のそれぞれの居場所となれる図書館を目指します。	<p>(館内サイン)</p> <ul style="list-style-type: none"> 館内の掲示やサインの見直しを実施し、ピクトグラムを活用した分かりやすく、統一感のある館内表示のあり方を検討、実施します。 <p>(施設環境の整備)</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者の持ち込みICT機器が利用できる一般閲覧席について、拡大を検討します。 	<p>(館内サイン)</p> <ul style="list-style-type: none"> 多文化サービスコーナーに絵本コーナーを設置するのに合わせて、適切なサインを付し、利用者の利便を向上 <p>(施設環境の整備)</p> <ul style="list-style-type: none"> 持ち込みICT機器利用不可区画の設置を検討
	② 地域の課題解決に役立つ図書館サービスの提供と拡充	地域の課題解決に役立つ図書館をめざします。ビジネス支援を拡充し、健康・医療サービス、行政支援などのサービスに取り組みます。また、地域の活性化や観光振興などのため、県内各地の取組を紹介したり、交流の場を提供します。	<p><R1-3></p> <p>(レファレンス事例の公開登録)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国立国会図書館のレファレンス協同データベースについて、一般公開事例及び調べ方マニュアルを合わせて年20件以上登録します。 	<p>(レファレンス事例の公開登録)</p> <ul style="list-style-type: none"> 20件の事例を一般公開登録（進捗率：100%）
			<p><R1-4></p> <p>(行政支援サービス)</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政職員向けに、県図書館の有効な利用方法や業務に役立つ参考図書の情報等を掲載した図書館だよりを年2回刊行します。 	<p>(行政支援サービス)</p> <ul style="list-style-type: none"> 県職員向けの「県図書だより」を年間2回発行（進捗率：100%）

【評価】

- B：予定どおり進んでおり、概ね順調に進捗

【理由】

- 計画どおり事業を実施したこと、また目標値に届かなかった項目（入館者数・利用者の満足度）についても、目標値の9割を超えたため

【評価】

- A：予定を上回る効果があり、着実に進捗

【理由】



- 100%以上に該当

【評価】

- A：予定を上回る効果があり、着実に進捗

【理由】

- 100%以上に該当

事業計画			
2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
<p>(入館者数・利用者の満足度)</p> <p>・利用者のニーズに応えるサービスの提供につとめ、年間33万人以上の入館者数を旨すとともに、90%以上の方が来館の目的を達成できるよう資料やサービス環境を整備します。【運営指標・数値目標見直し】</p> <p>(危機管理と「新しい生活様式」への対応)</p> <p>New! 今回のようなパンデミックという事態の中での事業継続の在り方について調査・検討を進め、新たなる災害にも対応できる危機管理体制を構築します。</p> <p>New! 非来館型サービスや「新しい生活様式」に対応した施設や機器の整備・導入を検討し、着手可能なものについては実施に移していきます。(関連：項番<R2-8>(SNSの活用))</p>		<p>毎年度、評価の対象</p> 	
		<p>調査・検討を継続</p>	
<p><R2-2></p> <p>(レファレンス事例の公開登録)</p> <p>・国立国会図書館のレファレンス協同データベースに、事例を20件以上登録します。</p> <p>(行政支援サービス)</p> <p>・県職員向け「県図書だより」を年間2回以上刊行します。</p> <p>New! 「県図書だより」や他機関が行う研修会などで図書館の紹介や効果的な使い方などを解説します。</p>		<p>毎年度、継続実施</p> 	<p>2023年度末時点で100件以上登録</p>
		<p>内容、回数の検討を実施、継続刊行</p>	
		<p>行政支援・議会支援サービスを推進</p>	




取組	行動目標	概要	2019年度	
			事業計画	点検・評価
1 すべての県民への図書館サービスの提供	② 地域の課題解決に役立つ図書館サービスの提供と拡充	地域の課題解決に役立つ図書館をめざします。ビジネス支援を拡充し、健康・医療サービス、行政支援などのサービスに取り組みます。また、地域の活性化や観光振興などのため、県内各地の取組を紹介したり、交流の場を提供します。	<p><R1-5></p> <p>(ビジネス支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス支援に関する講演会等の企画や関連資料の展示事業を専門機関や外部の団体と連携して実施します。 <p>(利用講座)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の調査研究を支援するため、館備え付けの新聞記事データベースの一般向け利用講座を年2回開催します。 <p>(行政機関との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県各局や地方機関と連携し、あいちトリエンナーレやアビリンピック等の県政の課題に係る企画・展示事業を実施し、情報発信に努めます。(担当機関と調整のうえ実施) <p>(地域連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県始め自治体の観光担当部門や地域の観光協会等関係機関・団体と連携して企画・展示事業を実施し、地域振興に関する情報発信に努めます。(担当機関・団体と調整のうえ実施) 	<p>(ビジネス支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・起業セミナー「落語で学ぶ事業承継セミナー」(連携：日本政策金融公庫他) (2/8、参加者：77人)及び関連資料展示「事業承継・起業を応援します！」(1/10～3/1)を実施 <p>(利用講座)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11/30に利用講座を実施(参加者：7人)(2回目の講座は臨時休館のため中止) <p>(行政機関との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県各局、地方機関(教育機関を含む。)や関係団体延べ35機関・関係団体と連携し、あいちトリエンナーレやあいち技能五輪・アビリンピック、G20外相会合等県政の課題に係わる企画展示を実施 <p>(地域連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の自治体の観光担当課、観光協会等と連携して企画展示「藍染が風にゆれる町一有松」(6/14～7/10)(名古屋市観光文化交流局、県絞工業組合、有松・鳴海絞会館等)、「尾州廻船」(11/15～2/12)(知多半島観光圏協議会等)、「第7回穂つとネット東三河フォトコンテスト入賞作品展」(3/5～4/14)(県東三河総局)、「夏の粹-東三河大花火」(6/14～9/11)(東三河8市町村観光担当課等)、「愛知県の星空の聖地・奥三河星空写真展」(9/13～12/11)(奥三河観光協議会)、「前田真三写真展ふるさと奥三河」(12/13～3/1)(茶臼山高原協会、茶臼山高原の美術館)を実施 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A：予定どおり進んでおり、着実に進捗したため <p>【理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政機関・関係団体との連携(35機関等)や地域連携企画展示が大きく進捗したため </div>
	③ 学校や地域、家庭での子供読書活動の支援	子供の読書活動を支援するため、学校図書館を始め関係機関・団体と連携し、資料の提供や、活動への支援を進めます。	<p><R1-6></p> <p>(県立学校等訪問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立学校等の読書活動・学習活動を支援するため、学校等の訪問を積極的に実施し、県図書館に対するニーズを把握します。 <p>(県立学校への資料貸出)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立学校最寄りの市町村立図書館を経由した協力貸出について、学校訪問によるニーズの確認を踏まえ、対象学校を12校に拡大します。 <p>(県立学校との企画展示での連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立学校と連携し、県立学校生徒の学習活動の成果を、<u>県図書館所蔵の資料と合わせ展示、発表できる場を提供し、一般利用者と県立学校及び県図書館の知的資源を結びつけます。</u> 	<p>(県立学校訪問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立学校3校を訪問し、学校図書館活動、読書活動及び学習活動について意見聴取を実施 <p>(県立学校への資料貸出)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立学校4校及び最寄りの市町村立図書館との間を調整し、対象校を累計12校に拡大 <p>(県立学校との企画展示での連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立刈谷東高校の折り紙部と連携し、「県立刈谷東高校 折り紙部作品展」(2/14～3/1)を実施。作品の素材となった図書も展示

事業計画			
2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
<p>(ビジネス支援サービス)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス支援に関する講演会等の企画や関連資料の展示事業を専門機関や外部の団体と連携して実施します。 <p>(利用者向け図書館利用講座の実施等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商用データベースの利用法や参考図書など図書館を活用するツールの利用講座の実施や利用を促進する環境整備を実施します。 <p>(行政機関・関係団体との連携・協力)</p> <p>New! 2020年度企画展示の統一テーマである「愛知の農林水産業」を中心に、県各局や地方機関、関連団体等と連携・協力した企画展示を実施し、情報発信に努めます。(担当機関・団体と調整の上実施)</p> <p>(地域連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光情報コーナーについて、県の担当局、県内市町村の観光関係当局、地域の観光協会等と連携し幅広い観光情報の収集・提供を実施し、充実を図ります。 ・東三河コーナーについて、県東三河総局、東三河8市町村の観光関係当局等と連携・協力し、東三河の観光情報の幅広い収集・提供を実施します。また、東三河の自然・文化等を紹介する企画展示を実施します。 			
<p><R2-3></p> <p>(県立学校への協力貸出)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立学校最寄りの市町村立図書館を経由した協力貸出について、学校訪問等によってニーズを確認し、対象学校を拡大します。(目標：対象校を16校以上) (継続実施) ・県図書館から学校(図書館)に向けて年間1,200冊以上の協力貸出を目指します。【運営指標・数値目標見直し】 			





取組	行動目標	概要	2019年度	
			事業計画	点検・評価
1 すべての県民への図書館サービスの提供	③ 学校や地域、家庭での子供読書活動の支援	子供の読書活動を支援するため、学校図書館を始め関係機関・団体と連携し、資料の提供や、活動への支援を進めます。	(読み聞かせ講座等の体制整備) ・読み聞かせ講座等について市町村立図書館や県立学校等の求めに応じられるように体制を整備し、講座の実施について積極的な情報発信に努め、職員の派遣を実施します。	(読み聞かせ講座等の体制整備) ・幸田町立図書館「読み聞かせステップアップ講座」に職員1名を講師として派遣(6/20)
			<R1-7> (子供読書活動の推進) ・子供の読書活動推進に係るイベントや行事に合わせ、関係機関・団体等と連携し、おはなし会やワークショップ等の事業を実施します。(担当機関と調整のうえ実施)	(子供読書活動の推進) ・展示「本の帯コンクール優秀作品展」(連携：名古屋市教育局(主催者))、展示「青少年によい本をすすめる県民運動」(連携：愛知県青少年育成県民会議)、おはなし会「わくわく絵本はアート! By県図書」(連携：県文化振興事業団)、紙芝居イベント「紙芝居の広場」(連携：紙芝居文化の会)を実施
			<R1-8> (団体の調査) ・県教育委員会や市町村立図書館等と連携し、地域で読書活動・文庫活動を行っている団体の調査を実施し、団体の図書館へのニーズを把握します。	(団体の調査) ・「全国読書グループ総覧」(読書推進運動協議会発行)を活用した調査・検討を実施
④ 資料保存体制の整備及びデジタル化の推進	県の拠点図書館としての資料保存の中心的な役割を果たすために、資料保存体制を整備するとともに、地域資料を中心にデジタル化を進めます。	<R1-9> (あいちラストワン・プロジェクト) ・あいちラストワン・プロジェクト未参加の自治体(1市)への参加の働きかけを継続するとともに、図書館未設置自治体(6町村)へあいちラストワン・プロジェクトの説明、意向の確認調査を実施します。	(あいちラストワン・プロジェクト) ・あいちラストワン・プロジェクト未参加の1市が参加(未参加館を解消) ・設楽町(図書館未設置自治体)を訪問、あいちラストワン・プロジェクト事業趣旨を説明	

事業計画			
2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
<p>(教育分野との連携・協力) ・教育関係機関・学校と連携・協力し、児童・生徒の学習活動の成果を県図書館で紹介する企画展示を実施し、学校と県図書館の知的資源を利用者と結びつけます。</p> <p>(子供読書活動のためのアウトリーチ活動の推進) ・子供の読書活動推進のため、読み聞かせやブックトークといったイベントでの協力、学校図書館の運営に対する助言や支援ができるよう体制を整備し、積極的に市町村立図書館や学校等へ職員を派遣します。</p> <p>(子供読書活動の推進) ・子供読書活動推進に係る関係機関や団体等と連携・協力し、イベントや企画展示を実施します。</p> <p>(団体貸出の調査) ・団体のニーズ把握に努め、協力貸出による資料提供の可能性を検討します。</p>			
	教育関係機関・学校との連携・協力事業を継続		
	アウトリーチ事業を継続		
	子供の読書活動推進に係る連携事業を継続		
	団体貸出の可否を検討		
<p><R2-4></p> <p>(あいちラストワン・プロジェクトの拡大) ・図書館未設置自治体へのあいちラストワン・プロジェクトの説明・意向確認調査を継続します。</p>			
	図書館未設置自治体参加を推進		

取組	行動目標	概要	2019年度	
			事業計画	点検・評価
1 すべての県民への図書館サービスの提供	④ 資料保存体制の整備及びデジタル化の推進	県の拠点図書館としての資料保存の中心的な役割を果たすために、資料保存体制を整備するとともに、地域資料を中心にデジタル化を進めます。	<R1-9> (資料補修研修) ・資料補修技術を有する職員を養成するため、養成に関する体制について年度の前半期に検討を行い、後半期に検討結果に基づいた職員研修を実施します。	(資料補修研修) ・館内での職員研修を2回(5/9、6/13)実施。愛知図書館協会資料保存研修に職員を派遣。 【評価】 ・A：予定を上回る効果があり、着実に進捗 【理由】 ・ラストワン・プロジェクトに図書館設置自治体全てが参加したため
			<R1-10> (地域資料のデジタル化) ・地域資料について、自館の撮影機材を活用し、デジタル化作業に着手します。撮影した資料については、書誌解題を作成し図書館のホームページでの公開を目指します。 (貴重和本デジタルライブラリー) ・「貴重和本デジタルライブラリー」に、本館所蔵の愛知に関する貴重和本(撮影済み)を順次調査し、タイトルを追加します。	(地域資料のデジタル化) ・「柞蚕飼養」始め自館撮影資料3タイトル5冊をホームページで公開 ・アーカイブズ「愛知県図書館 画像コレクション」を新設、「愛知県鳥瞰図」始め鳥瞰図の画像12点を公開 (貴重和本デジタルライブラリー) ・「貴重和本デジタルライブラリー」に『古語拾遺』(文久2年刊)始め14タイトル26冊を追加(自館撮影資料を含む) 【評価】 ・A：予定を上回る効果があり、着実に進捗 【理由】 ・既存のデジタルアーカイブに加え、「画像コレクション」の公開を実施
			<R1-11> (閉架書庫の整備) ・開架及び閉架書庫の有効活用を図るため整備計画を作成します。開架図書 of 適正な収蔵及び合理的な書庫への配転作業を実施します。	・閉架書庫内電動集密書架増設のため、2020年度までの整備計画を作成し、予算要求に活用 ・開架図書約10,000冊を閉架書庫に配転し、空いたスペースを、開架図書の適正な収蔵に利用 【評価】 ・A：予定を上回る効果があり、着実に進捗 【理由】 ・昨年度(約9,000冊)を上回る書庫への配転
2 市町村立図書館等への支援	⑤ 協力貸出、相互貸借の拡充	市町村立図書館等との間で運行している資料搬送定期便の効率的な運用により、協力貸出、相互貸借の拡充を図ります。	<R1-12> (協力貸出) ・県図書館から市町村立図書館に向けて年間18,000冊以上、学校図書館に向けて年間2,000冊以上、合計2万冊以上の協力貸出を目指します。(運営指標) (資料搬送定期便) ・資料定期搬送便の効率的な運行方法を検討し、安定した搬送に努めます。 (協力貸出の流通状況) ・市町村立図書館が必要としている資料を把握するとともに、今後の図書館支援を考慮するため、協力貸出で、どのような資料が流通しているのかを継続的に調査します。	(協力貸出) ・市町村立図書館等への貸出 12,270冊(進捗率68.2%)、学校図書館への貸出2,267冊(進捗率113.4%)、合計14,537冊(進捗率72.7%) (資料搬送定期便) ・運行の効率化に努め、年間を通じて週1回の資料定期搬送便を維持 (協力貸出の流通状況の調査結果(概要)) ・2019年度前半期の協力貸出のデータを蓄積し内容分析を実施。(概要)和書が約88%、価格3,000円未満が約65%、2000年以降の出版が約61%を占めており、専門的資料よりも近年に出版された比較的安価な一般書の需要が大きいと推測され、重点収集資料との相関は見いだせなかった。 【評価】 ・C：一部で予定どおり進んでおらず、やや進捗が遅れている。 【理由】 ・数値目標 60%以上 80%未満

事業計画			
2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
<p><R2-4> (資料補修研修の実施) ・資料補修技術を有する職員養成のため、引き続き研修を実施します。 New! 資料補修研修については、実習の関係上、参加人数が限られることから、未参加者にも知識や技法を教授するツールを開発します。</p> <p>(資料のデジタル化の推進) ・貴重本の撮影済みデータや、自館でデジタル化したデータを順次調査し、「貴重本デジタルライブラリー」等のホームページで公開します。(目標：15タイトル)</p> <p>(蔵書収容能力の維持・管理) ・開架図書の適正な収蔵の維持及び合理的な書庫の利用のため、適切な計画に基づく配転作業を実施します。</p>	<div data-bbox="986 338 1297 376" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">資料補修研修の実施を継続</div> 		
<p><R2-5> (市町村立図書館等への協力貸出) ・県図書館から市町村立図書館に向けて年間10,800冊以上の協力貸出を目指します。(学校(図書館)への協力貸出と合わせて12,000冊以上)【運営指標・数値目標見直し】</p> <p>(資料搬送定期便の維持) ・安定した資料搬送のため、予算確保や運行の効率化に努め、週1回の資料定期搬送便を維持します。</p> <p>(協力貸出の流通状況の調査) ・協力貸出データ分析では、市町村立図書館の需要を把握するための有意な結果が得られなかったことから、市町村立図書館からの購入リクエストの分析など、これに代わる手法での需要の把握に努めます。</p>	<div data-bbox="986 1608 1331 1659" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">資料搬送定期便の予算の確保に努め、安定した資料搬送を継続実施</div> 		<div data-bbox="986 1845 1315 1883" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">協力貸出の流通に係る調査を継続</div> 

取組	行動目標	概要	2019年度	
			事業計画	点検・評価
2 市町村立図書館等への支援	⑥ 市町村立図書館等の運用・人材育成の支援	市町村立図書館等が地域の課題解決に資する質の高いサービスを提供できるよう、運用・人材育成を支援します。	<R1-13> (図書館訪問) ・県図書館に対する市町村立図書館支援のニーズを把握し、それぞれの地域での読書活動推進に資するために、市町村の中央図書館の1/3以上を計画的に訪問することとし、図書館未設置町村についても必ず1以上の自治体への訪問を実施します。	(図書館訪問) ・市町村立図書館17館を訪問(進捗率106.3%) ・図書館未設置町村のうち設楽町を訪問 【評価】 ・A: 予定を上回る効果があり、着実に進歩 【理由】 ・100%以上に該当
			<R1-14> (図書館職員の研修) ・参加型研修を一層推進するため、効果的な研修手法について調査し実践に応用するとともに、市町村立図書館への訪問等を通じて、市町村の図書館職員が必要とする研修テーマの選定、実施に努めます。	(図書館員の研修) ・関係団体(愛知図書館協会、愛知県公立図書館長協議会)に研修委員会を設けて検討、また研修参加者にアンケートを実施し、研修テーマを決定し、実施 ・研修実施回数: 16回 ・参加人数: 延べ650人 【評価】 ・A: 予定どおり進んでおり、着実に進捗したため 【理由】 ・市町村図書館の要望を組んだ研修を、着実に16回実施したため
3 図書館ネットワークの形成	⑦ 様々な団体・行政機関と連携する場と機会の提供	各種団体や行政機関と連携して講演会や資料展示会等を開催し、県民の方と県図書館、各種団体及び行政機関が持つ知的資源を結び付けます。	<R1-15> (文化機関・研究機関との連携) ・愛知芸術文化センター(栄施設)の美術館始め各施設、大学等の教育研究機関等と連携し、カフェ形式の講演会を年8回程度実施します。 (行政機関との連携) ・県各局や地方機関と連携し、あいちトリエンナーレやアビリンピック等の県政の課題に係る企画・展示事業を実施し、情報発信に努めます。(担当機関と調整のうえ実施)【項番<R1-5>再掲】 (県教育委員会、県立学校との連携) ・県教育委員会と連携して、県立学校の活動や、所蔵の貴重資料の紹介について意向調査を行います。	(文化機関・研究機関との連携) ・リパラルアーツカフェを4回、県美術館学芸員による連続講座を4回、県立芸術大学と連携した芸術講座1回の計9回実施 (行政機関との連携) ・県各局、地方機関(教育機関を含む。)や関係団体延べ35機関・関係団体と連携し、あいちトリエンナーレやあいち技能五輪・アビリンピック、G20外相会合等県政の課題に係わる企画展示を実施【項番<R1-5>再掲】 (県教育委員会、県立学校との連携) ・県立刈谷東高校の県図書館での企画展示について意向確認を実施し、同校折り紙部と連携し「県立刈谷東高校 折り紙部作品展」(2/14~3/1)を実施。作品の素材となった図書も展示した。【項番<R1-6>再掲】 【評価】 ・A: 予定どおり進んでおり、着実に進捗したため 【理由】 ・カフェ形式の講座について9回、行政機関との連携と県教委、県立学校について着実に進捗をみたため


事業計画			
2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
<p><R2-6></p> <p>(図書館訪問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県図書館の市町村立図書館へのサポートのニーズを把握し、それぞれの地域での読書推進活動に資するため、市町村の中央図書館の1/3以上（16館以上）を計画的に訪問します。 ・図書館未設置自治体についても、公民館図書室等の施設や読書推進活動の担当課等を1以上訪問し、図書館未設置自治体での読書推進活動を把握します。 <p>(図書館員の研修)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛知図書館協会等のネットワークを活用し、県内図書館の状況の把握と研修に対する要望を踏まえ、時宜に適した内容の研修を実施します。 		<p>図書館訪問、図書館未設置自治体訪問を継続</p> 	
<p><R2-7></p> <p>(文化芸術機関等との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛知芸術文化センター（栄施設）の各施設や陶磁美術館、愛知県公立大学法人の各大学等と連携して、第一線の文化芸術活動を一般の方に紹介する講演会等の企画展示を実施します。 <p>(行政機関・関係団体との連携・協力)</p> <p>New! 2020年度企画展示の統一テーマである「愛知の農林水産業」を中心に、県各局や地方機関、関係団体等と連携・協力した企画展示を実施し、情報発信に努めます。（担当機関・団体と調整の上実施）【項番<R2-2>の再掲】</p> <p>(教育分野との連携・協力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育関係機関・学校と連携・協力し、児童・生徒の学習活動の成果を、県図書館で紹介する企画展示を実施し、学校と県図書館の知的資源を利用者と結びつけます。【項番<R2-3>の再掲】 		<p>関係機関・団体との連携・協力事業を継続</p> 	

取組	行動目標	概要	2019年度	
			事業計画	点検・評価
3 サービスを広げる 図書館ネットワークの形成	⑦ 様々な団体・行政機関と連携する場と機会の提供	各種団体や行政機関と連携して講演会や資料展示会等を開催し、県民の方と県図書館、各種団体及び行政機関が持つ知的資源を結び付けます。	<R1-16> (文化機関・研究機関との連携) ・愛知芸術文化センター（栄施設）の美術館始め各施設、大学等の教育研究機関等と連携し、カフェ形式の講演会を年8回程度実施します。【項番<R1-15>再掲】 <R1-15>再掲 (博物館、公文書館等との連携) ・県内のMLA各施設や地域情報を有する専門図書館等の資料検索システムについて、当館の横断検索システムへの適合可能性について調査します。	(文化機関・研究機関との連携) ・リベラルアーツカフェを4回、県美術館学芸員による連続講座を4回、県立芸術大学と連携した芸術講座1回の計9回実施 【項番<R1-15>再掲】 (博物館、公文書館等との連携) ・2020年4月の県公文書館のシステム更新を踏まえ、適合可能性を検証する予定 【評価】 ・A：予定どおり進んでおり、着実に進捗 【理由】 ・公文書館との連携については次年度へ繰り越すこととなったが、文化機関・研究機関との連携については予定を上回り実施したため、着実に進捗と評価
			<R1-17> (団体の調査) ・県教育委員会や市町村立図書館等と連携し、地域で読書活動・文庫活動を行っている団体の調査を実施し、団体の図書館へのニーズを把握します。 【項番<R1-8>再掲】 (団体貸出の調査) ・団体貸出の運用を検討するため、東海北陸地区等の県立図書館での団体貸出の運用の調査を実施します。	(団体の調査) ・「全国読書グループ総覧」（読書推進運動協議会発行）を活用した調査・検討を実施 【項番<R1-8>再掲】 (団体貸出の調査) ・東海北陸地区（富山、石川、福井、岐阜、三重）及び人口500万人以上（北海道、埼玉、千葉、東京、神奈川、大阪、兵庫、福岡）の各都道府県図書館に照会 【評価】 ・B：予定どおり進んでおり、概ね順調に進捗 【理由】 ・計画どおり事業を実施
	⑧ 多様なメディアを活用した広報の強化	県図書館の活動を県民に知ってもらい、身近な存在となるようホームページ、ソーシャルネットワークサービス（SNS）や動画サイトなど様々なメディアを活用し、広報活動の強化に努めます。	<R1-18> (事業年報の刊行) ・事業年報（前年度事業報告書）について、8月の刊行を目標とします。 (広報動画の作成) ・県図書館の沿革や活動を紹介する動画を作成し、ホームページ等で公開します。 (SNSの運用) ・Facebook、Twitterの投稿内容の見直しをするとともに、新規のSNSの導入の検討やInstagramの導入を行い、フォロワー数の5%増加を目指します。	(事業年報の刊行) ・事業年報（令和元年度版・平成30年度事業報告書）を11月に刊行した。 (広報動画の作成) ・児童室の紹介を兼ねた活動PR動画の撮影を開始したが、休館により中止 ※YouTubeに企画展示「読書の木をそだてよう！」紹介動画をアップ（2020.5） (SNSの運用) ・SNSの運用を効率化し、新しいSNSの追加を容易に行えるよう新SNS運用要領を策定 ・フォロワー数、前年度比14.0%増（1,894人）（2018末：1,661人） ※SNSの運用にYouTubeを導入（新規）（2020.5） 【評価】 ・B：一部で予定どおり進んでいないが、概ね順調に進捗 【理由】 ・事業が遅れたもの、休館により実施できなかったものがあったが計画を実施し、また、予定を上回った事項があったため

取組	行動目標	概要	2019年度	
			事業計画	点検・評価
3 図書館ネットワークの形成	⑧ 多様なメディアを活用した広報の強化	<p>県図書館の活動を県民に知ってもらい、身近な存在となるようホームページ、ソーシャルネットワークサービス（SNS）や動画サイトなど様々なメディアを活用し、広報活動の強化に努めます。</p>	<p><R1-19> （主要紙での広報） ・主要紙に掲載される記事について、企画展示の案内等に留まるのではなく、県図書館の取組みを伝えるものが80%以上となるようメディアに働きかけます。（運営指標）</p> <p>（会議等での広報） ・県図書館内外で開催される県関係の会議や研修会等で県図書館のPRに努めます。</p> <p>（アウトリーチでの広報） ・市町村立図書館や県立学校等への職員派遣の機会や県政お届け講座（出前講座）を利用し県図書館のPRに努めます。</p>	<p>（主要紙での広報） ・63.6%（11件掲載 プラス：7件、中立：4件、マイナス：0件）（前年度比：146.2%）</p> <p>（会議等での広報） ・県民文化局局内研修（5/14）、学校図書館関係職員研修会（県教委）（10/11）、子供読書活動推進大会（県教委）（11/7）に職員を派遣し県図書館の広報に努めた。</p> <p>（アウトリーチでの広報） ・南山大学司書課程・学校図書館司書教諭課程講演会（7/2）、「県政お届け講座」（就労移行支援事業所）（7/4）、愛知学院大学司書・司書補講習開講式（7/8）に職員を派遣。この他、項番<R1-6>の県立学校、<R1-13>の市町村立図書館等の訪問時にも県図書館のPRに努めた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価】 ・B：一部で予定どおり進んでいないが、概ね順調に進捗</p> <p>【理由】 ・主要紙での広報については、目標に届かなかったが、その他の事業計画については順調に進捗した。</p> </div>
			<p><R1-20> （手に取る書庫内図書ツアー） ・手に取る書庫内図書ツアーを3回（うち1回中高生向け）企画、実施します。</p> <p>（一般向け講演会） ・読書や図書館に係る団体等と連携し、一般向けの講演会を実施します。（団体等と調整のうえ実施）</p>	<p>（手に取る書庫内ツアー） ・手に取る書庫内ツアー2回実施（中高生向けは休館のため中止）</p> <p>（一般向け講演会） ・愛知図書館協会、公益財団法人日本交通公社「旅の図書館」と連携して一般向け講演会を開催（11/10）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価】 ・B：予定どおり進んでおり、概ね順調に進捗</p> <p>【理由】 ・目標どおり事業が進捗</p> </div>
4 県図書館活動を支える体制の整備	⑨ ものづくり文化、地域資料などの専門的な資料の収集と提供	<p>改正した収集方針等に基づき、ものづくり文化資料、地域資料等を重点的に収集し提供します。また、拠点図書館として市町村立図書館の蔵書を補完する役割を果たし、県図書館ならではの専門的な資料や研究書等を中心に充実した蔵書を収集し提供します。</p>	<p><R1-21> （蔵書検索アクセス件数） ・本県の特性に応じた、県図書館らしい蔵書構築やその充実に努め、蔵書検索アクセス数を年間180万件以上となるよう努めます。（運営指標）</p> <p>（重点収集資料の受入れ） ・重点収集資料について、受入点数の50%程度を占めるように努めます。</p> <p>（社史の受入れ） ・社史について、神奈川県立図書館（約1万9千点）等社史の充実した蔵書を有する施設の所蔵状況等を調査し、県図書館が未所蔵の資料について寄贈の依頼、購入等を実施します。</p>	<p>（蔵書検索アクセス件数） ・蔵書検索アクセス件数：1,701,226件（進捗率94.5%）</p> <p>（重点資料の受入れ） ・56%（受入累積点数 7,235/13,013点）</p> <p>（社史の受入れ） ・他館の社史所蔵状況等を調査し、未所蔵の資料について寄贈依頼を行うなどし、149冊の社史を受入</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価】 ・B：一部で予定どおり進んでいないが、概ね順調に進捗</p> <p>【理由】 ・数値目標には届かなかった計画もあるが、その他は計画を上回るか、順調に事業を執行したため</p> </div>

事業計画			
2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
<p>(主要紙での広報)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要紙に掲載される記事について、企画展示の案内等に留まるのではなく、県図書館の取組みを伝えるものが80%以上となるようメディアに働きかけます。 <p>【運営指標】</p> <p>(SNSの活用)</p> <p>New! 新規に導入したYouTubeでの動画広報について、活用できる体制を作り、制作を軌道に乗せます。(再掲)</p> <p>(会議やアウトリーチ活動等での広報)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、会議や研修、アウトリーチの場を使い、県図書館の広報に努めます。 <p>(開館30周年事業の企画)</p> <p>New! 2021年に開館30周年を迎えることから、記念事業の実施を企画します。</p> <p>(利用者参加型の企画の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「手に取る書庫内ツアー」など利用者参加型の企画を実施します。 <p>(文化芸術機関等との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛知芸術文化センター(栄施設)の各施設や陶磁美術館、愛知県立大学法人の各大学等と連携して、第一線の文化芸術活動を一般の方に紹介する講演会等の企画展示を実施します。【項番<R2-7>の再掲】 	<p>30周年記念事業の実施</p>	<p>県図書館のPR事業の推進を継続</p>	
<p><R2-9></p> <p>(蔵書検索アクセス数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本県の特性に応じた、県図書館らしい蔵書構築やその充実に努め、蔵書検索アクセス数を年間180万件以上となるよう努めます。(運営指標) <p>(重点収集資料の受入れ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重点分野の資料について、引き続き受入点数の50%以上を占めるように努めます。 <p>(社史等ものづくり関係資料の受入れ)</p> <p>New! 社史等ものづくり文化に関する資料について、担当と協議し、100点以上の受入れを目標に、必要な資料を調査・選定し、収集・整理します。</p>	<p>毎年度100点以上受入</p>	<p>毎年度目標</p> <p>重点分野の資料収集について継続</p> <p>5か年受入6万点(予想)のうち当該分野3万点以上</p> <p>2023年度末社史については7700点所蔵する。</p>	

取組	行動目標	概要	2019年度	
			事業計画	点検・評価
4 図書館活動を支える県図書館の体制の整備	⑨ ものづくり文化、地域資料などの専門的な資料の収集と提供	改正した収集方針等に基づき、ものづくり文化資料、地域資料等を重点的に収集し提供します。また、拠点図書館として市町村立図書館の蔵書を補完する役割を果たし、県図書館ならではの専門的な資料や研究書等を中心に充実した蔵書を収集し提供します。	<R1-22> (蔵書評価) ・重点収集資料分野の蔵書評価を検討するため、他県の導入・実施状況や文献等を調査し、蔵書評価の対象、方法等を決定します。	(蔵書評価) ・大阪府立図書館、東京都立図書館等の蔵書評価の先行事例を調査し、蔵書評価の対象、方法等を含めた実施方針を決定した。 【評価】 ・ B：予定どおり進んでおり、概ね順調に進捗 【理由】 ・計画どおり事業を実施
	⑩ 新しい取組みを担う県図書館職員の育成	社会の変化や多様なニーズに応えるため、図書館サービスを効果的・効率的に行う研修や調査研究の実施に努めます。	<R1-23> (館内研修) ・図書館研修（H29年度から実施）を中心に、館内研修を整理し系統立て、年10回実施します。 (関連領域の研修への参加) ・統計グラフ研修会（県統計協会）、公民館等社会教育担当者研修会（県教育委員会）等県関係機関等が実施する図書館運営に役立つ関連領域の研修に職員を派遣します。（関係機関等と調整のうえ受講）	(館内研修) ・館内で行われていた研修を整理し図書館研修として年11回実施 (関連領域の研修への参加) ・文書管理関係3件、統計学関係2件、社会教育関係2件、広報・PR手法関係2件、歴史・地理関係2件、手話関係1件、著作権関係1件、地方自治関係1件の計14件の研修に延べ22名の職員を派遣 【評価】 ・ A：予定を上回る効果があり、着実に進捗 【理由】 ・館内研修が目標を超え、関連領域の研修に20名を超える職員（前年度12名）が参加したため
			<R1-24> (講師派遣等の回数) ・市町村立図書館等への職員の講師派遣や学協会等での発表（会報や学協会誌等での文献発表を含む）を年間24回以上実施します。（運営指標）	(講師派遣等の回数) ・県民文化局局内研修（5/14）、読み聞かせステップアップ講座（幸田町立図書館）（6/20）、図書修理講座（豊明市立図書館）（6/27）、南山大学司書課程等講演会（7/2）、県政お届け講座（7/4）、愛知学院司書・司書補講習開講式（7/8）、瀬戸市図書館協議会（7/8、2/20）、学校図書館研修会（10/11）、三河公立図書館協議会（11/22）、愛知図書館協会レファレンスサービス研修（11/27）の11回の研修等に職員14名を講師派遣、また、図書館年鑑2019、愛知図書館協会報（2件）、『公立図書館における蔵書構成・管理に関する報告書』（全公図）の4件（回）に寄稿し、計15回の実績であった。（進捗率：62.5%） 【評価】 ・ C：一部で予定どおり進んでおらず、やや進捗が遅れている。 【理由】 ・進捗率が60%以上 80%未満

事業計画			
2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
<p>(蔵書評価)</p> <p>New! 蔵書評価を、他都道府県立図書館との蔵書構成比較、県内市町村立図書館との収集図書との比較の2点で行います。</p>	<p>蔵書評価を継続。PDCAサイクルを通じて実務に反映</p> 		
<p><R2-10></p> <p>(館内研修の推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県の拠点図書館としての役割について理解を深める館内研修を実施します。 <p>(職員の研修)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館の運営に資する統計学や広報手法等関連領域の研修（e-ラーニング等非対面型の研修含む。）に職員の受講を促します。（目標：延べ10人の受講） <p>(講師派遣・成果発表)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市町村立図書館等への職員の講師派遣や学協会等での発表（会報や学協会誌等での文献発表を含む）を年間14回以上実施します。（地域の要望に積極的に応じるとともに、広報にも努める）【運営指標・数値目標見直し】 	<p>蔵書評価を継続。PDCAサイクルを通じて実務に反映</p> <p>毎年度、評価の対象</p> 